

るりの利用の仕方についての確認事項

弊社では9部門の事業を展開しています。その中で、短期入所と生活介護、訪問リハビリでサービス提供が困難となる事例が発生しています。この報告が、ご家庭でも利用の仕方を話し合う機会となれば幸いです。

事例 1：短期入所

 夜間帯（21時～5時）までの間にほぼ1時間毎にナースコールを鳴らす。そのコール内容は、「お茶飲みたい」「寒い」「タブレットが落ちた」「尿が漏れてないか見てほしい」それぞれ各2～3回、この内容で合計9回コールがありました。またその都度、体位変換しタブレットと携帯電話とティシュペーパー、ナースコールなど一式を枕元にセットし直す。この状況だったので当然、眠れていないと思われるが、ご本人様の反応は、「良く寝れた」と…。しかし家に帰宅すると同時に「辛かった」と泣き出されたので家人は困惑される。また更衣時に、タブレットを使用しだすと更衣したくてもさせてもらえず業務がストップし残業となった。

事例 2：訪問リハと生活介護

 先天性疾患の方の訪問リハで、毎回2時間かけて赤ちゃんの様な小さい筋肉をひとつずつ触知していました。本来の訪問時間は40分ほどですが、筋肉が小さすぎて触診に毎回2時間必要でした。ある日、突然に痛みが大泣きする。原因が分からず、受診しレントゲン撮影しても診断がつかずに困っていましたが、リハの触診で左足関節の捻挫と特定し副木などで足部固定すると疼痛軽減されました。訪問リハで、ここまで信頼関係を結んで介入していましたが、生活介護の見学時に下記の要求があった。「看護師を一人専用で付けてほしい」「家のマットと同じレベルのマットにしてほしい」など…

利用目的について

短期入所は市の指定を受けた障害者支援施設です。一日一組の高級宿でプライベート空間での優雅な滞在を目的とはしていません。特別なひとときを過ごすための利用は受けていません。介護、看護している方が疾病やその他の理由により一時的に支援できなくなった場合に、預かり入浴や排泄、食事などの支援を提供する場所です。また、生活介護や訪問看護も同じく市の指定を受けた施設や事業所です。生活介護は日中の活動やケア。訪問看護は在宅での生活のサポートが主な業務内容です。

ナースコールについて

そもそもナースコールとは、支援が必要な緊急時に呼ぶためです。るりでは「身体的な理由」「精神的な理由」から押したくても押せない方が多くいます。押せる方が過剰な要求でスタッフを拘束すると、押せない他の方への対応が困難となります。るりではナースコールに関係なく、夜間帯は2～3時間毎の見守りやパット交換を実施しています。

今後の対策

開設当初は事業所も手探りの中、お預かりしている責任を果たすために毎日が精一杯でした。利用者様も最初は不安で寂しくて添い寝を希望される方もいましたが、一年半経った今では個室で寝られるようになったり、悪いことをしても謝ることが出来なかったのに謝ることが出来るようになっていたり嬉しい成長も感じています。このように、私達も要望はなるべく希望通りに受けていきたいと企業努力してきました。また短期の日程調整についても、ケアや要求が多い方は一日一人しか預からないように配慮して十分に対応出来る体制で受け入れてきました。しかし残念ながら事例1・2に共通して、こちらの配慮が裏目に出てしまい、要求がエスカレートしました。そこで、これを機に利用の仕方や禁止事項などを周知したいと思います。

るりの短期入所では利用者6名に対しスタッフ1名で対応しています。そこで、まずは短期入所利用時でのPC関係の使用を禁止させていただくこととします。これだけでも、使える方と使えない方に対応する時間配分が違ってきます。どうか今後も継続して持続可能な事業を続けていくためにご理解くださいますようお願い致します。またご家庭でも上記の事例をもとに今一度、サービスご利用に当たってはご本人様の意思決定のご確認をよろしくお願い致します。

* 本件に関する問い合わせ先：合同会社とまきざき 代表社員 木村幸美 (代表) 079-227-9213